



沼津 光夫 議員

## 新たな農林業政策の方向性は

### 農業政策の新たな方向性について

問後継者問題は、農業だけでなく大きな課題となっている。以前から後継者については様々な対策が実施されてきたが、今後市はどのような取り組みを考えているのか。

答 農業委員会・農業者団体・県・JAひだ等で構成する就業支援協議会を設立し研修から就農までのサポートや就農後のフォローアップを実施してきた。今年度から親元就農者への新たな支援制度を創設する。後継者をはじめ若者が次代の農業を担っていただける取り組みを行う。

問 夢のある高山をめざす時、今後の農業の方

### 向性をどう考えているのか。

答 第八次総合計画の中では、「飛騨高山ブランドの農畜産物が国内外で多く消費されること」、「農業を支える多くの担い手が育成・確保されること」、「農山村がもつ他面的な集落機能が発揮されること」を目指している。農家等の声を聞きながら、農業が魅力ある産業として発展するように進めていく。

### 昨年の豪雪による山林の倒木処理について

問 県治山事業での倒木除去を検討しているが、保安林指定とすることが条件のため、なかなか進まないが。

答 県の治山事業や既存の間伐補助事業で処理

できない箇所は、市単独の支援制度の創設を、今議会に提案する。

問 高山市単独で倒木に対応する作業道の補助制度を新たに創設してはどうか。

答 今後も森林経営計画に基づき、既存の補助事業による森林作業道の整備を進めていく。

問 倒木処理を単年度ですべて行えないので、環境整備のため、先ずは主要道路の倒木処理を進めたらどうか。

答 治山事業で対応するよう岐阜県飛騨農林事務所に要望する。

また、既存の補助事業の対象とならない倒木の処理について、新たな支援制度を今議会に提案できるようにする。

問 倒木により被害のあった林道法面やガードレールの復旧と予算対応は。

答 優勢順位を付け、今年度の当初予算を活用し、順次復旧作業を進めていく。



今井 武男 議員

## 給食センターの整備とアレルギー対策

### 学校給食センターの施設整備について

問 第八次総合計画には給食センターの老朽化に伴う整備が計画されているが、どのように考えているのか。

答 築後35年が経過している。八次総において学校給食施設は、安全性や地元食材に配慮した整備を計画している。また、衛生環境の向上を図っていく。

問 ここ10年間のアレルギーを持つている児童の状況は。

答 平成17年度は121人、平成26年度は234人で全児童に対する割合も1.52ポイント増と増加傾向にあり、また、その対応も複雑になっている。

問 家庭と給食センターにおける「学校生活管理指導表」の現状と対応は。

答 学校における配慮や管理が必要な児童生徒のアレルギー疾患の正確な状況を把握するため、医師の診断によるアレルギー疾患用の「学校生活管理指導表」および問診票を提出していただき、これらをもとに、三者面談の上、対応方法を決定している。

問 アレルギー対応の専門ラインを設けるべきではないか。

答 国が定める「アレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」によれば、学校給食において食物アレルギーに対応するためには、安全性を最優先し、区画

されたスペースで調理することが望ましいとされている。新たな施設整備時には、専用ラインなどによる適切な対応を検討し安心・安全な学校給食の実施に努める。

### ヘルプカードについて

問 障がい者や認知症の方等が、緊急時や災害時、援助を必要としていることが一目で分かるヘルプカードを作成する考えはないか。

答 必要な支援や配慮につながるツールであることは認識している。有効に活用するために、周囲の方にも広く知っていただくことが重要である。また、県単位で共通様式を作成するなど、関係団体や他市と意見交換を行うなど研究していく。



東京都などのヘルプマーク